



成果指標				
成果指標	施設使用回数			
指標設定の考え方	施設使用回数			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標26年度
目標	50	50	50	0
実績	48	50	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	屋外トイレが設置されたグラウンドは、主にびわ祭りでの利用、老人クラブのゲートボールで利用されており、また地域の子供たちの遊び場ともなっている。今後も、事故等のないよう十分な施設管理が必要である。旧校舎である建物自体は、老朽化が進んでおり、地域イベントの資材収納スペースとして、またイベントの準備等で使用されているのみで、集会等の使用はないものの、今のところ地域活性化のために必要な施設とはなっている。使用できる間は、管理を行う必要があると思われる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	担当者の認識のとおり、旧校舎については必要最小限の修繕等による管理とするが、耐震にも問題があることから近い将来の解体を前提とし、地域とも協議を進め、代替施設の必要性について検討を進めなければならない。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題